

日原昌造 いちばら しょうぞう 評論家。嘉永五年長門國豊浦郡長府生れ、明治二十七年歿（一八五二—一九〇四）。筆名在ボストン生、豊浦生。明治初年大阪舎密塾学校で小泉信吉のぶきちの塾生、のち上京して慶應義塾教員となる。十二年横濱正金銀行創立の際し、小泉に從つて入行。ロンドン支店長在職中「倫敦通信」の題下し『時事新報』に寄稿。爾來斷續的ながら晩年に及んだ。ハ君福澤（諭吉）先生の知遇を受くること最も深く……先生常し日原の論議は恰も余の言はんと欲する所を一言ひ悉くして遺憾なく、一として我意に適せざるものなきことなきを激賞せり（石河幹明）。その後サンフランシスコ支店長に轉じ、二十二年、四年頃辭職して歸郷、退隱自適の生活を送つた。

